

令和6年度小学校及び義務教育学校前期課程で使用する  
教科用図書の採択結果等について

採択地区名 府中市

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報の扱い方について、関連する単元の前後に「情報」として配置し、各領域の学習活動を関連させることができるように整理されている。</li> <li>・中学年までは、児童が日常生活の中で直面しやすい問題場面・問題状況を教材として取り上げているが、高学年では、多様性や環境など実社会と結び付いた教材が設定されている。</li> <li>・第1学年以外「季節の言葉」として、季節の歌や詩、行事について掲載されている。第6学年では、古典に関する教材が数回に分けて掲載されている。</li> <li>・文章だけでは分かりにくい事柄について、写真やグラフ等で説明されている。</li> <li>・低学年段階から役割を意識したグループ討議が展開されている。二次元コードでモデルとなる話し合い方を動画で視聴することができるようになっている。</li> <li>・巻頭に学習することが明記されていて分かりやすい。</li> <li>・学習の見通しや流れが、見開き2ページで分かりやすく丁寧に示されている。</li> <li>・これまでの学習内容が紙面に示されており、系統性が分かりやすい。</li> <li>・「問いをもと」で、児童に問いかける言葉で単元を通した問いが投げかけられており、主体的な学びにつなげることができる。</li> </ul>
書 写	光村図書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標に「どんな関係があるのだろうか」「理由を合わせて考えよう」など、筆順や字形について考えさせる目標が示されている。</li> <li>・学習の進め方「考えよう」では、話し合いの視点が示されており、対話的な学びを通して学習を深められるような構成になっている。</li> <li>・1教材1目標で示されており、学習を通して身に付ける力が教材名として示されている。</li> <li>・「たいせつ」が掲載されており、児童が言語と図版によってポイントを理解できるよう配慮されている。</li> <li>・学習活動に必然性をもたせるために、国語科教科書と連動した教材を設定し、国語と一体的に扱えるようになっている。また、第6学年の教科書には、「書写ブック」が付いており、第1～6学年までに学習したことを日常生活に広げられることが示されている。</li> <li>・英語の内容や新聞記事の書き方が示されており、他教科との関連が図られている。</li> <li>・各学年で学習したことが書写ブックとして別冊風にまとめてあり、日常生活に生かすことができる。</li> <li>・目を引く「たいせつ」マークによって学習のポイントが明記されており、視覚的にも大事なことを確認しやすい。</li> </ul>

<p>社 会</p>	<p>日本文教出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1 単位時間ごとに、本時の問いが記載されている。</li> <li>・ 単元内に「見方・考え方」が示されており、単元内で身に付けさせたい力が明確にされている。</li> <li>・ 選択教材を設け、児童の興味・関心に即した学習を行うことができるようになっている。</li> <li>・ QR コンテンツでは、社会的な見方・考え方を働かせながら、見通しをもって学習が進められようになっており、実感を伴った理解を促すようになっている。</li> <li>・ 学習内容を観点ごとに表に整理できるようになっている。</li> <li>・ 巻頭に社会科の学習の進め方が示されている。</li> <li>・ 身に付けさせたい力が明確に示されている。</li> <li>・ 資料が比較しやすく、追究して学べる構成となっている。</li> <li>・ 「！」や「？」マークの記載があり、児童に思考を促すような問いかけが視覚的に分かりやすい。</li> </ul>
<p>地 図</p>	<p>帝国書院</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地図帳の使い方を問題解決的に掲載し、地図の見方では色分けをして示されている。</li> <li>・ 巻頭ページの世界地図と日本地図を示す際に、世界地図では「その国の有名なもの」「日本が多く輸入するもの」、日本地図では「それぞれの都道府県の有名なもの」が記載され、児童の学習意欲を高めることができるようになっている。</li> <li>・ 世界の統計資料を紹介する項目では、統計表に加えて「日本の農水産物・資源の輸入先」について記載されている。</li> <li>・ 日本全図では、巻頭や巻末、それぞれの掲載ページにおいて、都道府県及び地方区分、有名なもの、日本の領土とそのまわり、地形、気温、自然災害、土地利用、産業、歴史、日本の世界遺産が項目ごとに示されている。ユニバーサルデザインフォントが使用されている。また、児童の色覚特性に配慮した色づかいとなっている。土地の高さを立体的に捉えることができるようになっている。</li> <li>・ 地図と歴史を関連付けて調べることができるようになっている。地理的な視点で歴史を捉えることができ、特に明治元年と現在の土地利用の様子を比較して見るができるようになっている。</li> <li>・ 児童に分かりやすい絵が記載されている。</li> <li>・ 地図帳の使い方の説明が丁寧に行われている。</li> <li>・ 色分けにより、土地の高低が分かりやすい。</li> <li>・ どのページでも、市街地、田、果樹園が地図上で色分けして示され、色分けの仕方についての説明も記載されている。</li> </ul>
<p>算 数</p>	<p>大日本図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童にとって身近に感じる日常場面を取り上げて疑問を引き出し、めあてを設定するようになっている。学習の最後に振り返りの視点の記述があり、児童への支援となっている。</li> <li>・ 「見方・考え方をたしかめよう」の中で、学習したことを元に、新しい学習を進めていくことができるようになっている。大切な見方・考え方を振り返ることにより、自分で考え進めていくようになっている。</li> <li>・ 第6 学年のまとめの問題では、中学校と関わる内容については「中学への準備」と明記されている。また、「数学の世界へ」の中で中学校と関連のある内容の問題が取り扱われている。さらに「中学校の数学ではこんなことを学ぶよ」も掲載されている。</li> <li>・ イラストや写真は、問題の意味を理解させるために身近なものが扱われている。また、具体物から抽象へと表現方法が段階的に提示されている。</li> </ul>

		<ul style="list-style-type: none"> <li>・「算数の学び方」を設定し、学習の流れが示されている。考え方の図が示されている。また教科書の巻頭に「となりどうしで」「グループで」「クラスで」と場面に応じた話し合いの方法が示されている。</li> <li>・単元への導入ページがあり、児童の興味・関心を高めると同時に、問題解決的な学習を進めるための工夫がされている。</li> <li>・1年生では、書き込んで学習することができる大きいサイズの「スタートブック」が用意されており、半具体物を操作しながら学びやすい。</li> <li>・見方・考え方を働かせたり、既習の学びを生かして取り組んだりする問題が用意されている。</li> <li>・それぞれの単元に「プラス・ワン」として発展問題が用意されているため、主体的で、個別最適な学びにつながる。</li> <li>・中学校の学びをイメージしやすい。また、小学校で学んだことが、どのように中学校での学びにつながっているのかが分かりやすく示されている。</li> </ul>
理 科	東京書籍	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題を把握するための活動が呼びかけの形で提示されている。児童が対話しているイラスト等を用いて、学習のめあてや視点が示されている。学習内容の定着を図る「たしかめよう」が設けられている。</li> <li>・導入部分において単元の学習内容や学習課題を想起しやすくするための活動が取り入れられている。</li> <li>・単元外の内容を取り上げた「理科の世界 探検部」のコーナーで現代的な課題に関わる内容及び発展的な内容が扱われている。また、巻末の「理科とプログラミング」のページでプログラミング学習の内容が扱われている。</li> <li>・写真のサイズが大きく、変化や特徴等を細かく観察できるように工夫されている。また、ICTを活用した学習活動を選択できるように、QRコンテンツが提示されている。</li> <li>・児童の対話を例示している箇所がある。巻末に発表や話し合いの際の留意点が示されている。結果をどのように表現するのか例示されている。単元ごとに分かったことが示してあり、児童がまとめる際のヒントとなっている。また、その中に自分の言葉で説明する部分がある。</li> <li>・写真が鮮明で分かりやすい。</li> <li>・ICTを活用した学習活動を選択できるように、QRコンテンツの内容が多岐にわたっている。</li> </ul>
生 活	教育出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植物の成長などが比較しやすいように、年間の様子が掲載されている。</li> <li>・単元の終わりには、かならず振り返る手段が写真やイラストとともに提示されている。</li> <li>・上巻では就学前、下巻では中学年への接続を考慮した単元配列になっている。</li> <li>・学びを促すための動画が小見出しとともに提示されている。</li> <li>・相手にわかりやすく伝えるための具体的な姿（タブレットを使うなど）が写真やイラストで提示されている。</li> <li>・単元冒頭の「わくわくスイッチ」が学びの視点となっている。</li> <li>・生活科で身に付ける6つの力が活動ごとに示されている。</li> <li>・ページ下の見出しや「はっけんロード」で年間の学習や単元の学習を見通しやすい。</li> <li>・季節の様子を比較するための資料が充実している。</li> <li>・「ぐんぐんはしご」で各単元の振り返りが簡単にできるようになっている。</li> </ul>

<p>音 楽</p>	<p>教育出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リコーダーの指導事項がスモールステップで示され、階名ごとに写真が挿入されている。</li> <li>・和音のひびきの旋律づくりでは、4小節の旋律をつくる際の参考となるよう例が示されている。</li> <li>・QRコードを読み取り、鑑賞ができるようになっている。タブレットの見方についての注意が常に示されている。</li> <li>・音楽を形づくっている要素を「音楽のもと」と表し、要素を表すいろいろな言葉も明記されている。</li> <li>・自分の感じ方や考え方を深めていく場面の設定がされている。感じ方の違いを表現できるように、QRコードのリンク先に書き込めるようになっている。</li> <li>・演奏している様子が映像として流れるとともに、楽譜がリズム等と対応しているので、鑑賞が苦手な児童にとっても有効である。</li> <li>・音楽に関わる言葉が「音楽のもと」として示され、考えを表現する際のヒントとなる。</li> <li>・様々な楽器の楽譜が充実している。</li> </ul>
<p>図画工作</p>	<p>日本文教出版</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年の全題材で、ページ番号横に主な材料名や用具名がイラストで示されている。また、表現と一部の鑑賞題材に、「気をつけよう」や「かたづけ」の記載があり、用具の安全な使い方や片付け方が文で示されたり、題材によってはイラストや写真付きで説明されたりしている。</li> <li>・各題材名の下に、活動のきっかけとなる文が示されている（ゴシック体で使用されている）。また、全ての題材で二次元コードから、用具の使い方、作品例、仕組み等が視聴できるようになっている。そして、活動中のつぶやきや豊富な作品例によって発想や構想、工夫を読み取りやすくし、児童の興味・関心を高めようとしている。</li> <li>・全学年において、題材を「造形遊びをする活動」「絵に表す活動」「立体に表す活動」「工作に表す活動」「鑑賞する活動」の5項目に分類して配列している。鑑賞については、鑑賞のみの題材もあるが、基本的には全ての題材で鑑賞の活動が示されている。また、第1学年のスタートカリキュラム（幼児期の遊びとの接続）を意識した題材や中学校への接続を意識した題材が設定されている。</li> <li>・作品や造形活動について、発想・構想に関する発言やヒントを吹き出し等で示したり、作者の考え・感想を示したりしている。また、題材ごとのQRコンテンツは、導入と展開、振り返りのそれぞれの場面で使うことができるようになっている。</li> <li>・コミュニケーションや言語活動を重視した題材、共同で行うことを意図した題材が多く設定されている。また、適宜話し合いの観点も提示されており、言語活動が充実するような構成となっている。各上巻に掲載された特設ページに、作品を見て感じたことや考えたことを友達と話し合う活動を示すことで、言語活動の充実が促されている。</li> <li>・児童の活動に関わる吹き出しの内容が分かりやすい。</li> <li>・QRコンテンツの中に多くの作品例や道具の使い方が紹介されている。</li> <li>・ほぼ全ての単元で鑑賞のヒントが示され、表現と鑑賞の関連を図った学習活動が展開できるよう工夫されている。</li> <li>・児童に考えさせたり、想像を広げさせたりする呼びかけが充実している。</li> </ul>

<p>家 庭</p>	<p>開隆堂</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 全ての題材で、学習の流れ（めあて）が明記され、学習の進め方の文言と合わせて示されている。それぞれの学習段階に合わせて、めあてにチェック箇所がある。</li> <li>• 大きな題材をいくつか学んだ後、生活に生かし実践していくことをねらいとするページが設けられ、4つの視点でどのように考えて実践していけばよいか、吹き出しとともに示されたり、課題解決のステップが例示されたりしている。</li> <li>• 第5学年は、スモールステップで反復学習ができるように基礎・基本の定着を図る題材が設定されており、第6学年は第5学年で習得した技能を生かした題材が設定されている。</li> <li>• 野菜の切り方について、切り方の説明はそれぞれの題材のページに絵と動画で示されている。巻末で実物大の写真が掲載されている。右利き左利きの動画が、一つにまとめられている。実習の手順が横流れで示されている。</li> <li>• 主に「考えよう」「話し合おう」「やってみよう」のマークで示されているところで、生活をよりよくするための方法を考えたり、説明したりする活動が取り上げられている。</li> <li>• 同じような内容が見開きにまとめてある。また、制作過程や時間の経過に沿ったイラストや写真の並びが分かりやすい。</li> <li>• 紙面の下地に色が付いていて見やすくなっている。</li> <li>• 単元数が多く、関連する内容を繰り返して学習することができる。</li> <li>• 単元の初めに「なぜ」という投げかけがあり、問題解決的な学習をしやすい構成となっている。</li> <li>• 「持続可能な社会」の視点についての記載が充実している。</li> </ul>
<p>保 健</p>	<p>東京書籍</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「けがの手当」の単元では、実習の例が文章と絵で示されている。また、手当の方法を理由とともに記入させることができるようになっている。実験では、写真を用いて行い方が説明されている。また、QRコードから実習の内容を確認することができる。</li> <li>• 学習の進め方や課題解決の過程が各単元の先頭ページ右上に示され、右下にはキーワードを書き込みながら児童が主体的に振り返ることができるような構成となっている。</li> <li>• 単元の終わりに「資料」として学習を広げたり深めたりする内容が、単元の一部の終わりに「発展」として発展的な内容が掲載されている。また、QRコードから資料を確認することができるようになっている。</li> <li>• ジェンダーに配慮したキャラクターが取り入れられている。要所でQRコードを掲載し、動画やスライドを見て理解を深めたり、ワークシートや思考ツールを活用したりすることができるようになっている。</li> <li>• 自分の考えを書いたり、話し合ったりする「深める・伝える」場面と、授業で分かったこと等を記述する場面が設定されている。</li> <li>• 各単元の導入に、児童にとって身近な内容が扱われており、自分ごととして考えやすい提示となっている。</li> <li>• 学習の進め方として4段階でステップが示されており、学習の流れが分かりやすい。</li> <li>• 単元末には、次の時間に学習する課題に対する投げかけがある。</li> </ul>
<p>英 語</p>	<p>光村図書</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 単元末に目指す児童の姿が明確に記載されている。</li> <li>• 単元の導入において、会話場面や状況を明確に示している。聞き取る観点も示されている。</li> <li>• 少しずつ詳しく伝えられるように段階的に言語活動を導入し、最終的に児童が伝えたい事柄をスピーチできるように設定されている。スピーチを聞いている人が質問をする言語活動も設定されて</li> </ul>

		<p>いる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 単語はジャンルごとに色分けされている。第6学年の <b>Picture Dictionary</b> には、第5学年で記載のあった単語は記載されていないが、2次元コードから確かめられるようになっている。第5学年も、第6学年のものを調べることができる。第3・4学年で学習した単語には足跡マークが記載されている。</li> <li>・ 児童が「伝えたい!」と思えるように、コミュニケーションの目的や場面、状況が明確に示されている。また、誰が何のために伝えるのかという視点も示されており、自分の考えや気持ちを表現する活動が <b>Unit</b> の中心に設定されている。</li> <li>・ 学習内容がはっきりと記載されており、児童にも教師にも活動が分かりやすい。</li> </ul>
道 徳	日本文教出版	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童みんなが授業に参加でき、一人一人のよさが引き出され、豊かな学び合いが実現できるよう、学び方がわかりやすく示されている。</li> <li>・ 全ての学年で、「ぐっと深める」のページが設けられ、問題解決的な学習の手法が具体的に示されている。</li> <li>・ いじめを直接的、間接的に扱った教材とコラムを組み合わせた「人としての関わりユニット」が設定されている。また、コラム「心のベンチ」が設定され、情報モラルやSDGsについて学ぶことができるようになっている。</li> <li>・ QRコードはどの教材文にも用意されている。柔らかいタッチの絵が使われている。写真の使用場面が多い。</li> <li>・ 学習のまとめりごとに、自分の考えをまとめる欄があり、巻末の「見つけた!ここにもどうとく」として、1年間の学習を振り返るページが設けられている。</li> <li>・ 別冊に発問の記載がなくなっており、発問が限定されていないため使いやすい。</li> <li>・ 大きくくりのまとめりで振り返ることができるようになっている。</li> <li>・ 評価をするためにノートが役立つ。</li> <li>・ 心の動きを考えるデジタルツールとして、心情メーターやシンキングツール等が充実している。</li> </ul>